

授業改善推進プラン < 美術科 >

(美術) 科における平成29年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・ 表現について、生徒が身近に感じる題材の設定や、導入の指導を工夫したことで授業に主体的に取り組む姿が見られた。
- ・ 生徒の理解を深めるために、ICT 機器や教材を活用する場面を設定した。
- ・ 表現・鑑賞ともに、生徒の造形的な視点を育むための手立てが不十分である。

(美術) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>○表現について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 生徒が身近に感じる題材を設定し、導入を工夫することで、主体的な学びを実現し意欲的に主題を生み出す姿が見られた。・ 造形的な視点を育むための手立てを考え、意図的に造形に関する用語を用いて説明したり話し合ったりする活動を取り入れる必要がある。 <p>○鑑賞について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 話し合い活動や自分の考えを書き留める活動など通して、作品の造形の要素と感じたことなどをつなげて捉える視点を育む必要がある。
観点別結果の分析	<p>○「関心・意欲・態度」について、生徒が表現の過程で自分なりに工夫でき、意欲的に取り組める題材を設定する必要がある。</p> <p>○「発想・構想の能力」について、生徒の思いが造形の要素とつながり、表したいイメージをもって表現できるよう指導する必要がある。</p> <p>○「創造的な技能」について、発想・構想の能力をひとつながりとして捉え、表したいことが表せるように教材開発をする必要がある。</p> <p>○「鑑賞の能力」について、作品を鑑賞することで対象の見方や感じ方を広げるだけでなく、次の表現活動につながる鑑賞の授業を工夫する必要がある。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・ 意図的に造形用語を使用し、形や色彩といった造形の要素と生徒の思いをつなげる手立てを考え、指導に生かす。

(美術) 科の授業改善策

- ・ 表現活動においては、生徒が身近に感じる題材の工夫、生徒の思いを表現できる材料や用具の工夫、言語活動の充実によって、形や色彩などの造形の要素と感情のつながりを実感できるよう指導する。
- ・ 鑑賞活動において、生徒が自分の見方や感じ方を大切にしつつ、なぜそう感じたのか、なぜそう思ったのか、ということを造形の要素と関連付けて説明したり話し合ったりする活動を取り入れる。